

女川町まちづくりデザインのあらまし 第2版

—誇りと愛着の持てる暮らしやすいまちの実現に向けて—



海からプロムナードを望む



平成 26 年 11 月

ごあいさつ

世界三大漁場の一つ、金華山沖を間近に控え、湾形・水深とも優れた女川湾を抱く本町には、先人たちが山を切り拓き、海を埋め、たくましさや情熱と誇りをもって幾多の困難を乗り越え、時代ごとの郷土女川を発展させてきた歴史があります。

土地区画整理事業や防災集団移転促進事業などを軸に展開する東日本大震災からの復興は、先人の想いを受け継ぐ我々女川人のチャレンジです。生まれ変わる郷土の新しい姿は、今、女川で生きる私たちのみならず、将来世代に引き継いでいくものです。

その新しい女川の姿を、今日まで性別年代を問わず数多くの町民に直接参画いただき描いて参りました。本冊子は、これらの議論をより具体的に盛り込んだ「女川町復興まちづくりデザインのあらまし 第二版」です。ぜひご一読下さい。

女川町中心市街地の骨格構造—100年先を見据えたまちづくり—

女川町中心部のバリューアッププランのコンセプト

どこからでも海が見える

住みたい、訪れたい、自慢したい風景の創出

安全・安心・暮らしやすいまちづくり

3つの基本方針

①海の存在を最大限に生かす

あちこちの高台住宅地に、海が見える眺望点と景観軸を設定する。

②もともとの地形を最大限に生かす

現況地形はできるだけ生かして人工的な印象を和らげる。

③歴史的資産、被災を免れた公共施設等の資産を最大限に生かす

神社仏閣をはじめ公園や体育館等の存在価値を最大化する。

整備の基本的な考え方

数十年に一度は必ず来る津波に対しても浸水しないまち

- ・ 国道398号を境に山側を嵩上げして、数十年に一度の津波はもちろん、高潮・豪雨などに対しても安全な市街地をめざして整備します。

複数の高台避難道路・避難ルートが整備されたまち

- ・ 多くの人々が集まるエリアから市街地中心の高台につながる道路は、3車線分の広幅員を確保します。(都市計画道路 駅前清水線・堀切山駅前線・清水本通線)

子どもも大人もびのび歩き、活動できるまち

- ・ 幅広の歩道や歩行者優先道路のネットワークを整備します。
- ・ 低地部からもよく見える市街地中心の高台に避難場所を配置します。
- ・ 高台ごとに特色ある公園や広場を整備します。

子どもたちが安心して学べるまち

- ・ 新しい女川小・中学校は、現在の女川小・中学校と同様、今回と同程度の津波でも浸水しない高台に整備します。

まちの真ん中に、生活の軸線があるまち

- ・ 新しい女川小・中学校、地域医療センター、町役場、生涯学習センター、保健センター、子育て支援センター、商業エリア、JR女川駅、ゆぼっぼ、交通広場を、駅前清水線沿いに集約配置します。
- ・ 商業エリアには、官民が連携して、生活利便施設(生鮮食品店、飲食店、物販店、金融機関、郵便局、交番など)の立地を誘導します。(現在、計画策定中)

計画的な交通ネットワーク

道路、駐車場

- ・ 高台住宅団地内の区画道路は、幅員が6mとなり、車が余裕をもってすれ違うことができます。限られた用地を最大限に生かすためにひな壇造成としつつも、区画道路の勾配は基本的に6%以内とし、歩きやすさや冬季の路面凍結に配慮しています。
- ・ 商業エリアや町の公共施設に必要な駐車場を計画しています。
- ・ 町中心部の交通を担う都市計画道路を整備します。

JR石巻線

- ・ JR石巻線は、平成27年3月に女川駅～浦宿駅間の運行を再開します。

バス

- ・ 高台造成に合わせて、町民バスの路線再編を検討中です。
- ・ ミヤコーバスと運行計画について協議中です。

離島航路

- ・ 観光桟橋の復旧工事が完了後、船着場を再整備の予定です。

河川、下水道、上水道

- ・ 二級河川女川及び小乗川は、氾濫を防止するため、安全性を高める整備を行います。
- ・ 土地区画整理事業区域内では、汚水及び雨水を分離した分流方式の公共下水道を整備します。
- ・ 上水道は、女川上流部及び北上川から取水し、女川浄水場及び鷲神浜浄水場から各地区に配水します。

公園・緑地

- ・ 十分な緑と広場を確保することをめざして、樹林地の保全、法面の緑化に努めます。
- ・ 町民の生活に潤いと安らぎを与える身近な公園・緑地を整備します。

被災市街地復興土地
区画整理事業区域



まちの真ん中に生活の軸を集めたまち

「中心市街地」の空間づくりの考え方

にぎわいの拠点となる商業エリア

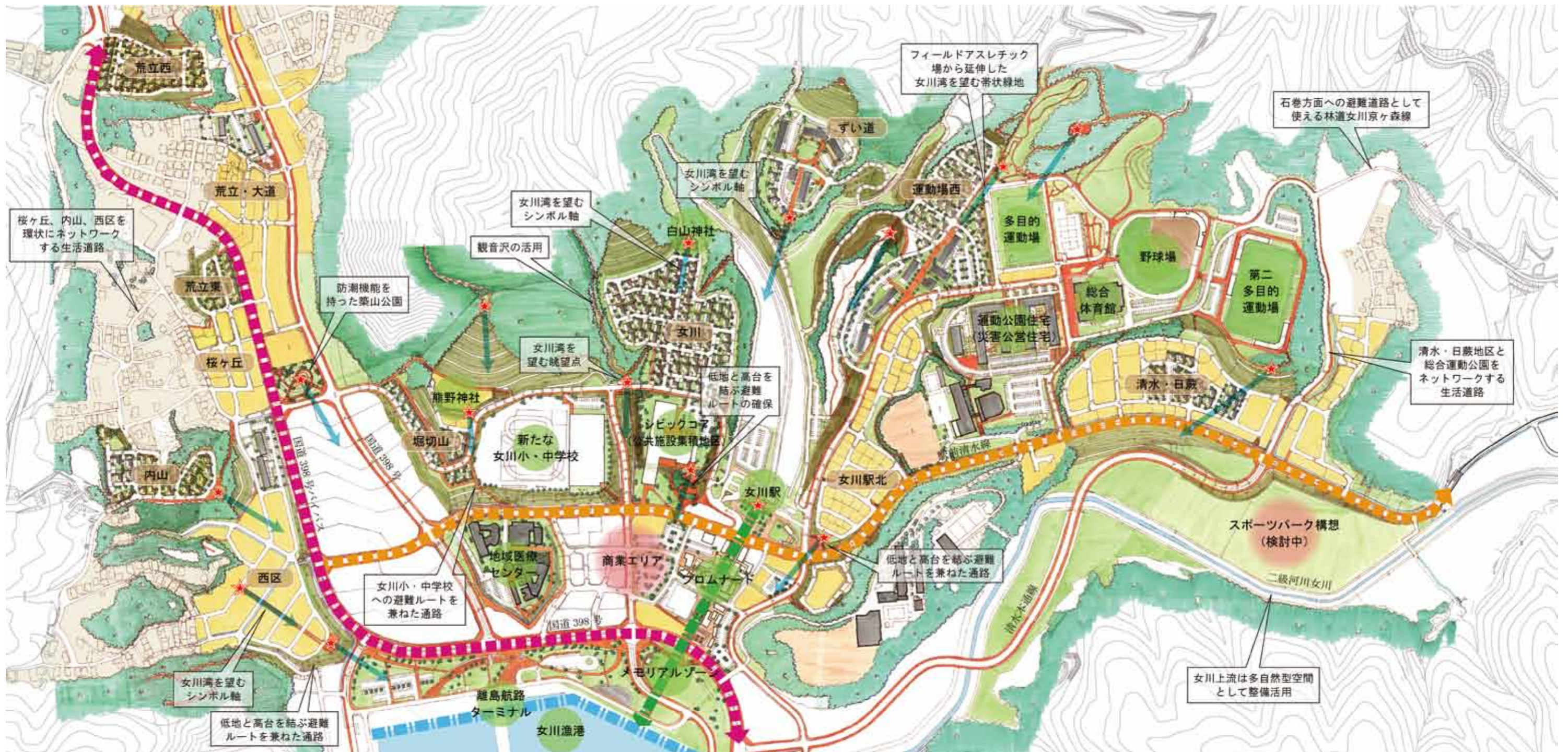
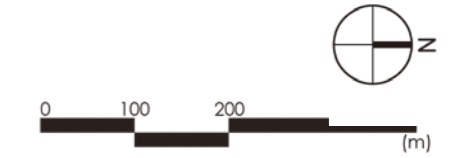
- ・ 町民が気軽に訪れ、集い、語り合う場をつくることをめざし、町民の“居場所”の形成を図ります。
- ・ 駅前広場、プロムナードを介して、日常生活と観光（非日常）の交流が生まれる場づくりに努めます。
- ・ プロムナードは、いざというときの安全な市街地中心の高台への明確な避難路となります。

公共施設を集めたシビックコア

- ・ 役場、生涯学習センター、保健センター、子育て支援センターを集め、コンパクトで利便性・機能性の高い施設づくりを行います。
- ・ 将来のまちの姿を考えた持続可能な施設づくりを行います。

町のへそとなる女川小・中学校

- ・ 次世代を担う子どもたちの「集い」、「学ぶ」場である女川小・中学校をまちの中心（まちの「へそ」）に整備することにより、地域コミュニティの一体化を図ります。



本資料の内容は現在検討中のものであり、変更されることがあります

商業エリア(にぎわい拠点)のまちづくり



「商業エリア(にぎわい拠点)」のコンセプト

- ・ 地域産業のブランド化・ネットワーク化により新たなにぎわいといやしの空間の創出
- ・ 町民や観光客が豊かな海や自然を満喫しながら、まちあるきをたのしみ、憩えるまちづくり

「商業エリア(にぎわい拠点)」のにぎわいづくりの考え方

まず町民が気軽に訪れ、語り合う

- ・ プロムナードや(仮称)地域交流センターが、町民の集う場となります。

人が回遊し、にぎわいの輪を広げる

- ・ 周辺の金融機関、商店、公共施設等から人を呼び込み、にぎわいの輪を広げます。

プロムナード周辺でおいしい“女川の食”を楽しむ

- ・ 町民や観光客が利用し、プロムナードを介して、日常生活と観光(非日常)の交流が生まれます。

いざというときは安全な高台へ

- ・ 高台へと通じる道路は、わかりやすく配置します。

空間づくりの考え方

時間とともに親しみが増す空間づくり

- ・ 地域に根付き受け継がれるものを大切にする空間づくりをめざします。
- ・ 震災前の道筋などのまちの記憶を大切にします。

港町らしさを感じられる空間づくり

- ・ JR 女川駅～プロムナードに海への眺望を確保した港町らしい空間を演出します。
- ・ 高台や駅舎には、港が望める場所を確保します。

歩行者優先の楽しいまちなみづくり

- ・ 駅前やプロムナードには、車が入らない歩行者専用の空間をつくります。
- ・ プロムナードとのつながりを考えた広場や路地などをつくります。

沿道店舗・施設と一体的な利用ができるにぎわい空間づくり

- ・ 施設の雰囲気が屋外ににじみだす空間づくりを行います。
- ・ 大小様々なイベント開催など、様々な利用ができるにぎわい空間をめざします。

女川駅周辺シンボル空間（駅前広場～プロムナード～海側）

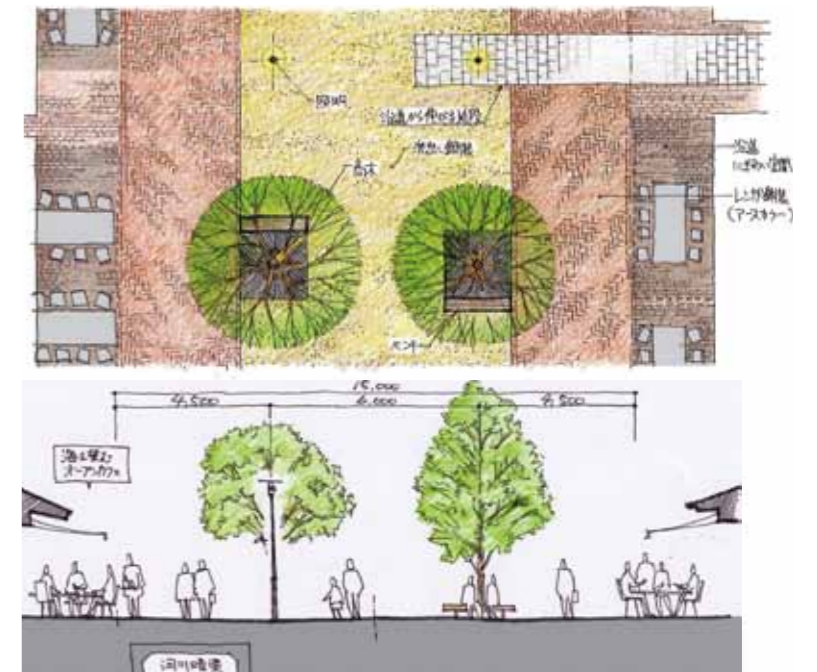
- ・ 駅前広場は、駅舎とともに、女川の玄関口にふさわしい象徴的な空間とします。
- ・ プロムナードは、駅前広場～海への軸線となります。四季を彩る並木やベンチを配置し、公園のように休んだり散歩したりできる緑豊かな歩行者空間とします。

- ・ プロムナード沿道の飲食・物販等の店先は、通常時にはテラスとして利用し、イベント時には、プロムナードや中心エリアの広場、メモリアル公園などと連携して利用できる空間とします。
- ・ 沿道の商業エリアの公共空間も合わせて、一体的な空間を創出します。

女川駅周辺シンボル空間の平面イメージ



プロムナードの基本構成イメージ



プロムナードのイメージ（海側から駅舎方向）



駅前広場のイメージ



（仮称）地域交流センターのイメージ



運動場西・女川駅北・ずい道・女川地区のまちなみ計画（案）



運動場西地区住宅地

带状公園に隣接する住宅地。女川湾に向かって緩やかな南東下がりひな壇造成で、日照と眺望を兼ね備えた住宅地となる予定です。

女川湾を望む眺望軸

フィールドアスレチック場～带状公園を受けて女川湾に視線が抜ける眺望軸。この軸沿いに集会所をはじめ小広場や住戸への出入り口が配され、にぎわい軸となることが期待されます。

女川湾を望む眺望軸

ずい道地区の中央部から女川湾に向かって延びる眺望軸。この軸沿いに集会所や住棟出入り口が配され、最奥部にはこの地区のコミュニティの拠点となる広場につながります。

地形と調和した自然な法面

住宅地の背後の切土法面は地形に沿って緩やかな曲線を描いているので、数年後は現況の地形となじんで圧迫感が軽減されます。



(法面のイメージ)

女川地区住宅地

シビックコアに隣接する住宅地。女川湾に向かって東向きに緩やかに下がるひな壇造成。地区の中央部に白山神社参道を兼ねるシンボル軸を擁す日照と眺望を兼ね備えた住宅地となる予定です。



※図中の数字は標高を示しています

女川湾を望む带状公園

フィールドアスレチック場と一体となった带状の公園。ここから見る女川湾は絶景です。



フィールドアスレチック場からの眺望

地域集会所(コミュニティコア)

運動場西・女川駅北のコミュニティ活動を担うゆとりのある空間を持つ集会所の整備を予定しています。

(仮称)丘の上広場

住宅地の先端に配置された展望広場。緊急時に女川駅や商業エリアから避難できる階段がつながります。街角でのちょっとしたイベントの場としての活用も可能です。

避難路を兼ねた眺望点

緊急時、女川駅や商業エリアからシビックコアを通して高台への避難路の整備を検討します。普段は駅に最寄りの眺望点となることが期待されます。



(女川駅前から南方向の景観イメージ)

女川湾を望む眺望軸

女川地区の中央部を女川湾に向かって延びる眺望軸。最奥部に配置された「白山神社」への参道の役割も果たすこの地区のシンボル軸でもあります。

避難路

緊急時、商業エリアから新たな女川小・中学校に避難できる避難路を整備する予定です。

堀切山、荒立大道、荒立東・西（鷲神浜）地区のまちなみ計画（案）



地形と調和した自然な法面
 熊野神社背後の切土法面は、地形に沿って緩やかな曲線を描いているので、数年後は現況の地形となじんで圧迫感が軽減されます。

荒立東地区住宅地
 女川湾に向かって北東に下がるひな壇造成で、国道 398 号に隣接する交通の便の良い住宅地。

女川湾を望む眺望軸
 荒立西区住宅地から女川湾を望む眺望軸。

荒立西地区住宅地
 北東に下がるひな壇造成住宅地。東端部を南北方向に走る道路からは、女川湾がよく見えます。国道 398 号に隣接する交通の便の良い住宅地です。

既存宅地と高台をつなぐ歩行者専用道路
 既存宅地と高台を結ぶ歩行者専用道路。普段は散歩道、緊急時には避難路となります。



※図中の数字は標高を示しています

女川湾を望む眺望軸
 地域医療センター越しに女川湾を望む眺望軸。堀切山住宅地と地域医療センターとは階段でつなぐ予定です。



堀切山地区から見る女川湾

堀切山住宅地
 鷲神浜と新たな女川小・中学校建設予定地をつなぐ道路沿いに展開する南下がりの住宅地。地域医療施設や教育施設に至近で、日照・眺望に優れた住宅地です。

女川湾を望む眺望軸
 女川湾を望む眺望軸であり、西区住宅地のシンボル軸。西区住宅地のほぼ中央部を女川湾に向かって延びる幅員 4m の歩行者専用道路。軸の先端部は展望の良い公園を整備する予定です。



西区から見る女川湾

内山地区住宅地
 尾根の上部を造成した住宅地。女川湾に向かって北東に緩やかに下がるひな壇造成になっています。北端には女川湾を見下ろす公園を整備し、公園と西区地区住宅地とは階段でつなぐ予定です。

宮ヶ崎地区のまちなみ計画（案）



海への眺望が楽しめる住宅地

標高50～66mの南東に下るひな壇造成の住宅地。女川湾、その先の外洋を望めます。女川では希少な南下がりの宅地で日照が自慢です。



(住宅地からの眺望イメージ)

シンボル軸

女川湾に向かって地区の中央部を貫通する本地区のシンボル軸。幅員8mの見晴らしの良い歩行者専用道路で、散歩や井戸端会議の場として利用可能です。ここからは女川湾や高崎山への眺望が楽しめます。



(シンボル軸のイメージ)

低地部と高台をつなぐ歩行者専用道路

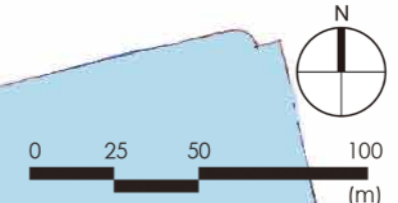
女川駅方向と本地区を結ぶ通勤通学路となる歩行者専用道路。緊急時には避難路となります。

メインストリート

女川駅方面と本地区を結ぶ幅員12mのメインストリート。2.5mの歩道を設置し、安全快適な道路空間の形成を図ります。



※図中の数字は標高を示しています



地形と調和した自然な法面

住宅地背後の切土法面は、地形に沿って緩やかな曲線を描いているので、数年後は現況の地形となじんで圧迫感が軽減されます。

女川湾を望む眺望



宮ヶ崎地区から見る女川湾

開放感を演出する緑の小路

災害公営住宅の海側と山側の住宅の間は人の歩行も可能な小路を整備する予定です。ちょっとしたゴミ出しや日常の暮らしを助けるとともに、お隣の井戸端会議などご近所づきあいの場として利用可能です。



(緑の小路のイメージ)

既存宅地と高台をつなぐ歩行者専用道路

既存宅地と高台を結ぶ歩行者専用道路。普段は散歩道、緊急時には避難路となります。

美しい曲線を描く区画道路

等高線に沿って緩やかにカーブする区画道路沿いに美しい街並みが連続します。この道路のあちこちには、女川湾を見下ろす眺望点がたくさんあります。



(区画道路のイメージ)

清水・日蔵地区のまちなみ計画（案）

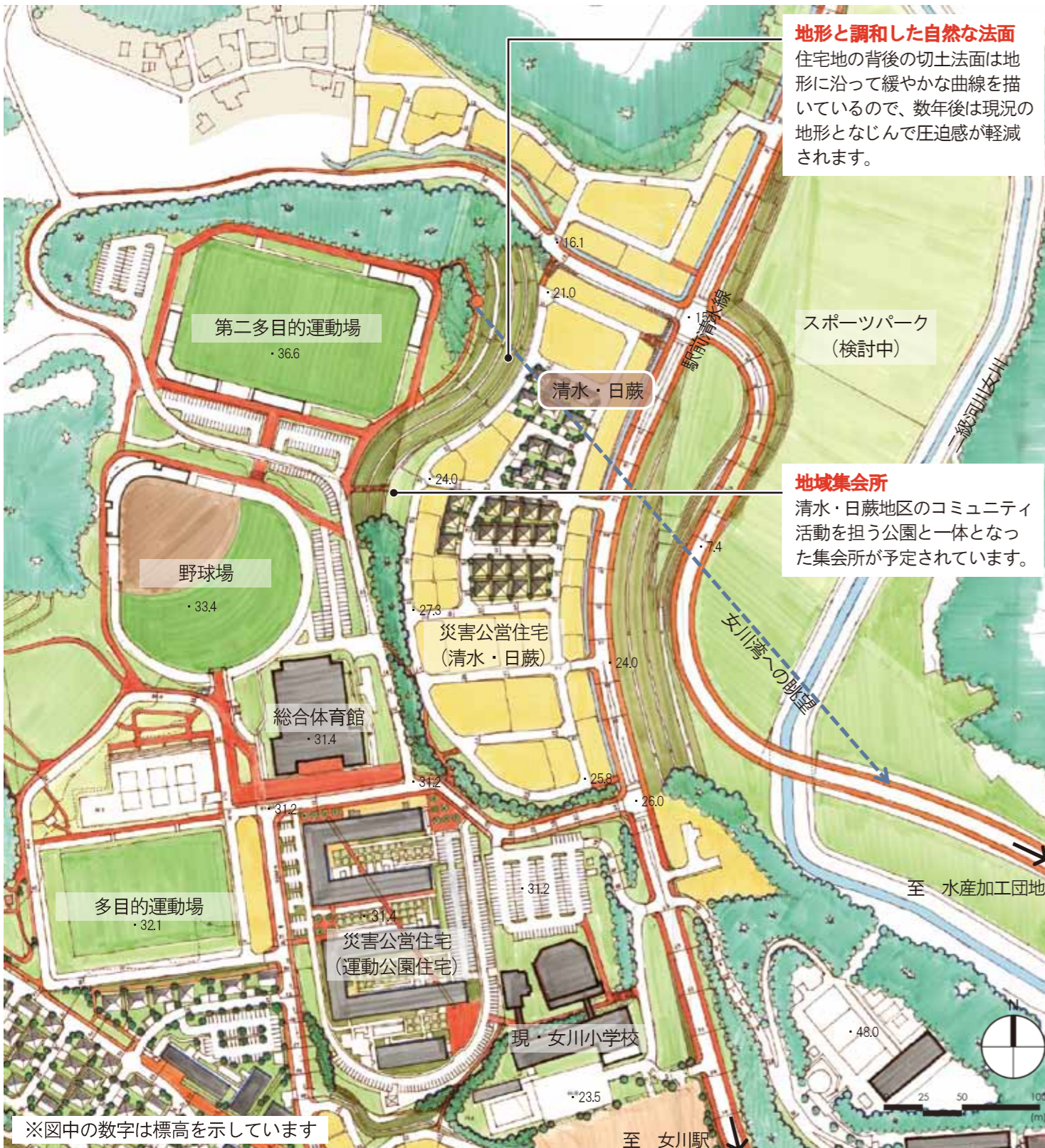


清水・日蔵地区住宅地

第二多目的運動場や総合体育館に隣接したスポーツ環境に恵まれた住宅地。標高は20～26m、二級河川女川に向かって東向きに緩やかに下がるひな壇造成となっています。また、団地内の道路は地形に応じて緩やかな曲線で構成されており、変化に富んだ美しい街並みの形成が期待されます。



（住宅地のイメージ）



旭が丘地区のまちなみ計画（案）

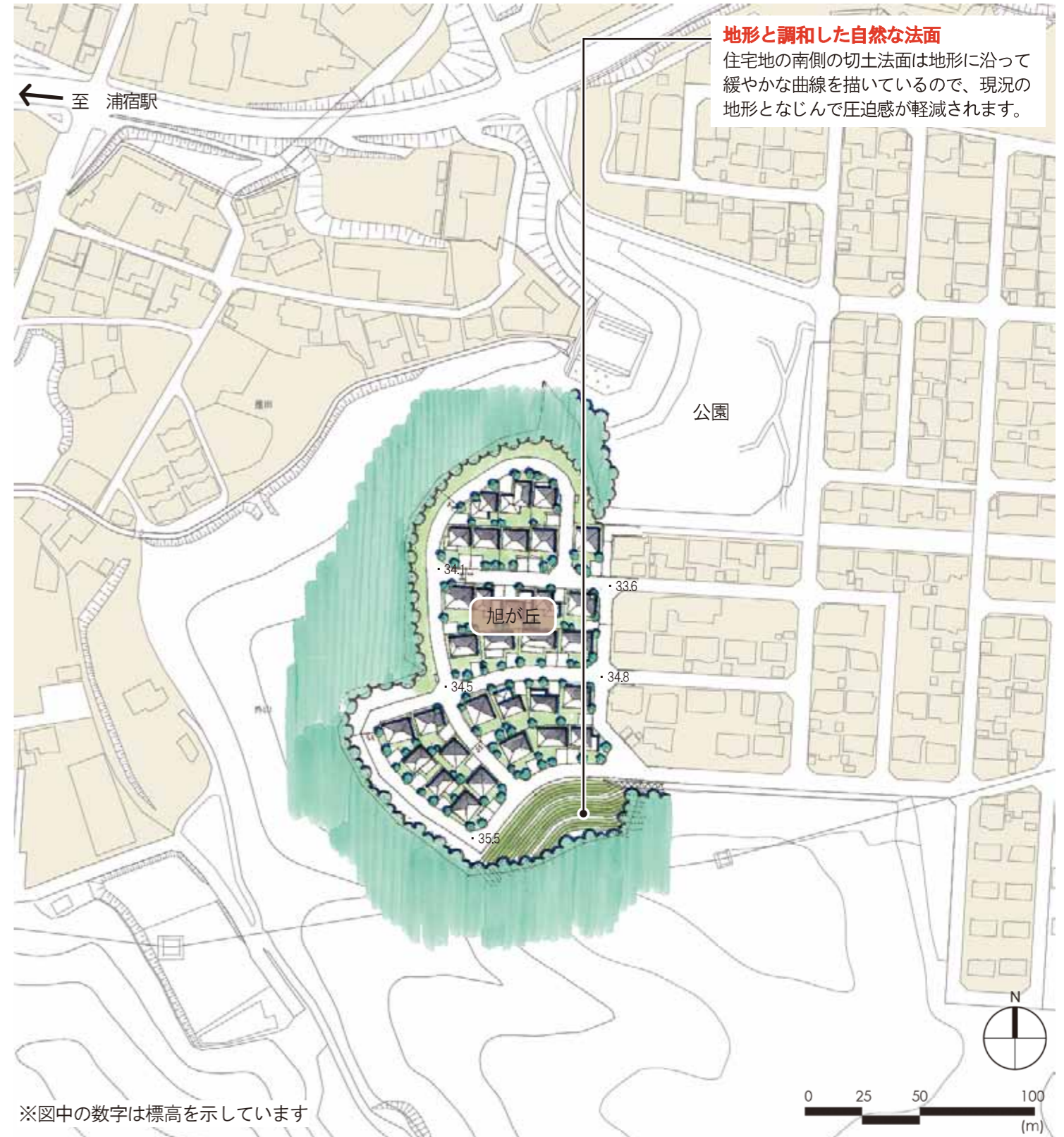


旭が丘地区住宅地

既存の旭が丘住宅地の最奥部に連続して整備される住宅地。西側に万石浦を控えます。標高は33～35m、道路勾配が1%前後の緩やかな北下がりですが、ほとんど平坦地で日当たりにも配慮した区画割です。団地内の道路は地形に応じて緩やかな曲線で構成されており、変化に富んだ美しい街並みの形成が期待されます。



万石浦に沈む夕日



石浜地区のまちなみ計画（案）

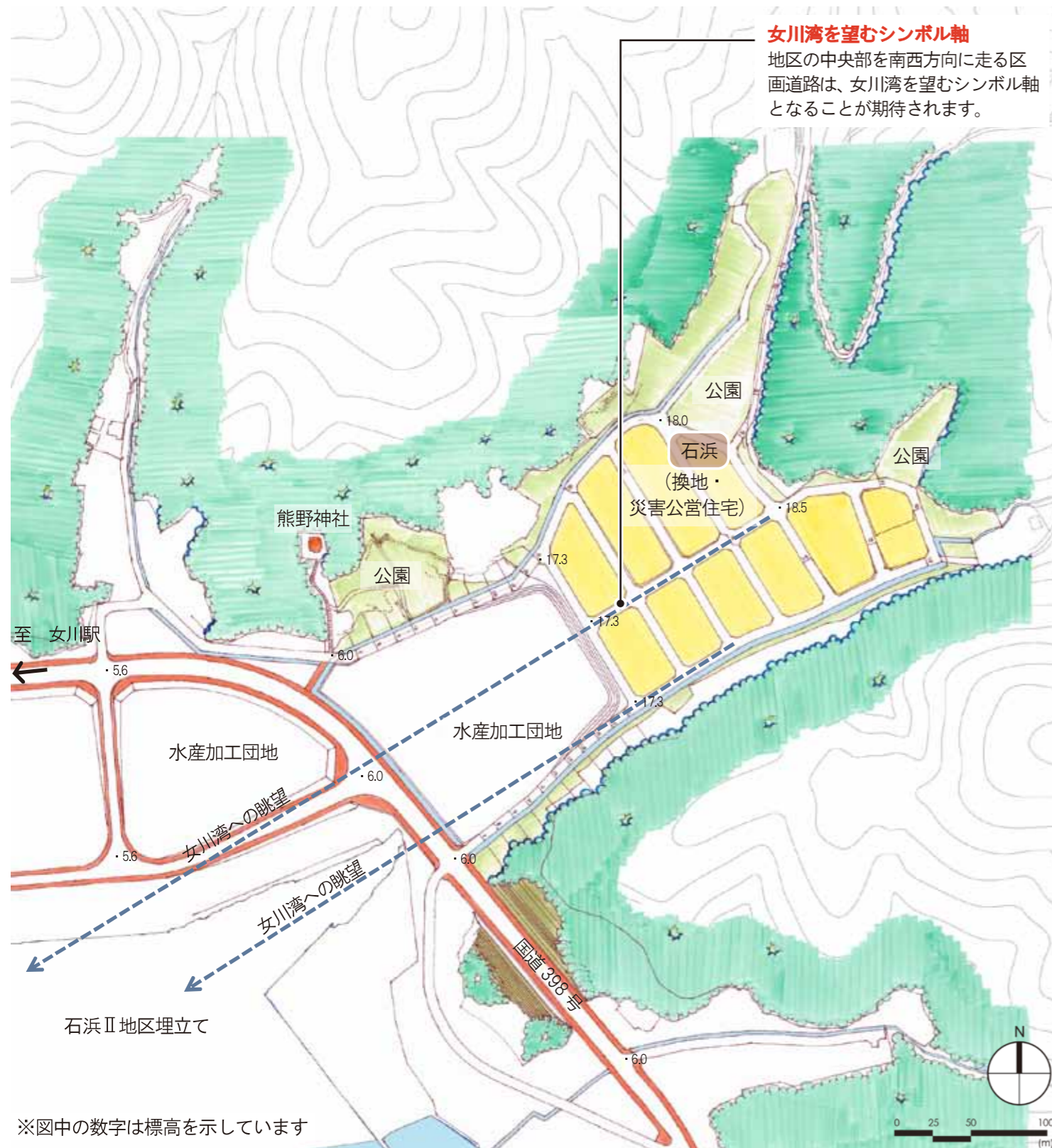


石浜地区住宅地

石浜地区の方々が移転する住宅地。地区のほぼ中央部を南西方向に走る区画道路は女川湾を望むシンボル軸です。標高は17~18mで、全体として南西に下がるほぼ平坦な住宅地です。



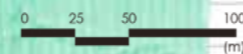
石浜から見る女川湾



女川湾を望むシンボル軸

地区の中央部を南西方向に走る区画道路は、女川湾を望むシンボル軸となることを期待されます。

※図中の数字は標高を示しています



小乗浜地区のまちなみ計画（案）

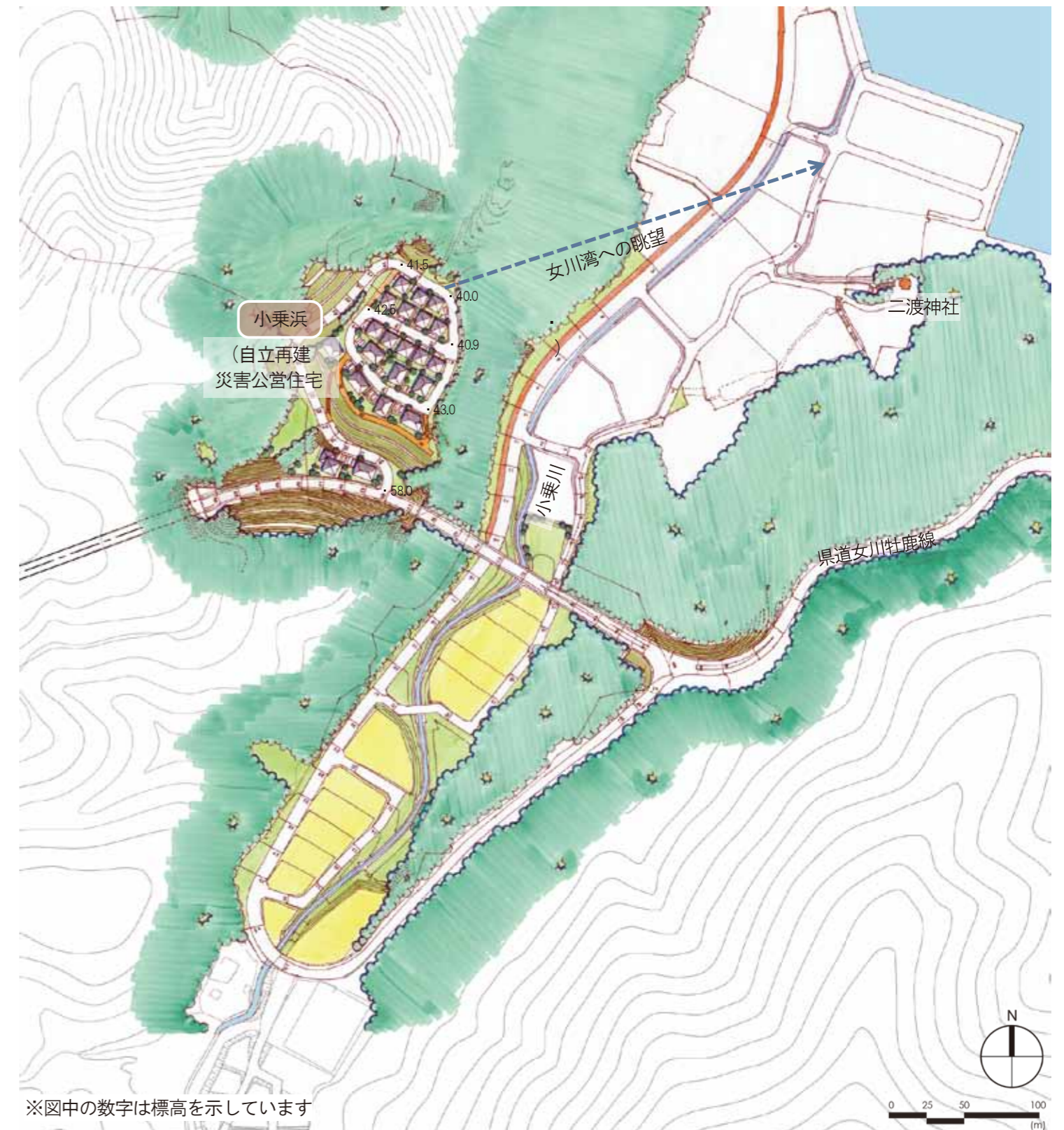


小乗浜地区住宅地

小乗浜地区の方々が移転する住宅地。県道女川牡鹿線と県道牡鹿半島公園線（コバルトライン）を結ぶバイパスからアクセスできる標高40~43mの高台住宅地です。女川湾に向かって北東に緩やかに下がるひな壇住宅地で、地区の南東端部には、公園と一体となった集会所を整備する予定です。



小乗浜高台住宅地から見る女川湾



※図中の数字は標高を示しています





発行 女川町役場復興推進課
〒986-2261 宮城県牡鹿郡女川町女川浜字大原 316 (仮設庁舎)
電話 0225-54-3131(代表)
URL <http://www.town.onagawa.miyagi.jp/>

QRコード
携帯電話で女川町の
ホームページにアク
セスできます。

